

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2013年11月）の予測

発表日：2013年12月27日（金）

～一致指数、先行指数とも3ヶ月連続の上昇を予想～

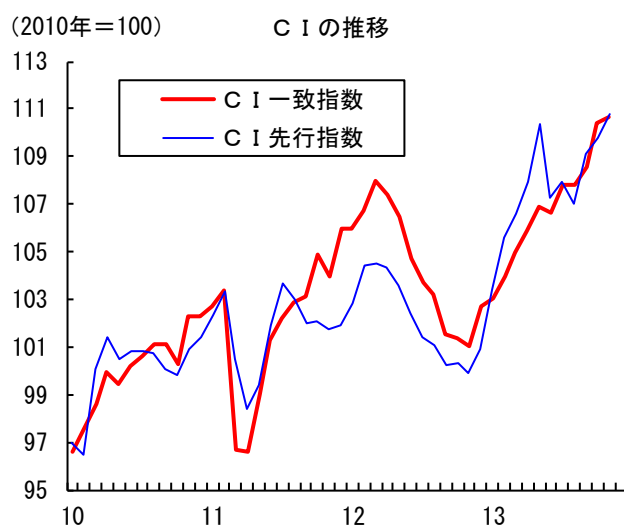
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

内閣府から14年1月10日に公表される2013年11月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+0.2ポイントと、3ヶ月連続で上昇すると予想する。上昇幅は小さいが、10月に+1.8ポイントと高い伸びだった後であることを考えればまずまずだろう。C I一致指数の着実な改善が続いていることが示される見込みだ。なお、11月分の内訳では、有効求人倍率や小売業販売額、耐久消費財出荷指数など、雇用・消費関連系列の押し上げが大きかった模様。一方、大口電力使用量や投資財出荷指数などは前月伸びた反動もあってマイナス寄与が予想される。

先行きは、上昇ペースの加速が予想される。消費税率引き上げ前の駆け込み需要が予想されることがその背景にある。実際、生産予測指数でも12月、1月とも高い伸びとなっており、企業が駆け込み需要対応の増産を予定していることが確認できる。加えて、海外経済の緩やかな改善や円安による押し上げ効果により輸出が増加する可能性が高いことや、設備投資の増勢が強まる可能性が高いことなども好材料だ。14年3月にかけてC I一致指数は好調に推移しそうだ。

C I先行指数は前月差+1.2ポイントと、3ヶ月連続の上昇が予想される。このとことの改善ペースは速く、先行きの景気回復ペース加速を示唆する動きと言える。内訳では、中小企業売上げ見通しD.I. や東証株価指数、日経商品指数などが押し上げ要因になる見込み。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は「改善」で据え置かれるだろう（「改善」判断は5ヶ月連続）。なお、「改善」の定義は「景気拡張の可能性が高いことを示す」である。内閣府は「景気の山」を2012年4月だったと暫定的に判定しており、12年5月以降は後退局面だったことになる。ただし、その後退局面は極めて短期間で終了したとみられ、12年11月に景気は谷をつけた可能性が高い（12年12月以降は拡張局面である公算大）。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2013年11月は第一生命経済研究所による予測値